

市内の交通体系の整備と 路線バス交通の現状と 課題は？

(日本共産党西条市議団)

問 1

黒谷・市之川など路
線バスの廃止地域

や、公共交通の空白地域が多くあるのが現状である。道路が狭く、坂があり、利用者が少ないことが理由に上げられるが、生活交通の確保及び充実、住民サービスへの期待にこたえられているのか。

答

公共交通は、市域全体の融和を図る一つの手法として大切であり、現在、過疎・辺地地域対策・人口変動・高齢者・中心市街地活性化・防災・観光などのテーマを持ち取り組んでいる。

京都大学との共同研究により、総合的な公共交通体系構築の見地から、集落などにおいて、集会や戸別の聞き取りなどの実態調査、関係部局との協議を行っているが、今後とも市内の JR 7 駅・バス・タクシー・フェリー・自転車などと連携した公共交通の方向性を考えていきたい。

問 2

現在の市単独補助路
線で、廃止代替バス

路線数・利用人数・乗車率を問う。また、利用者は減っていると思うが、今後、どのような対策を検討するのか。

答

現在、市内を運行している路線バスは 14 路線・23 系統である。

平成 19 年度のバス乗車人員は 61 万 2 千 893 人で、平成 16 年度が 64 万 4 千 948 人となっており、この 3 年間で 5 パーセント減少している。

このうち市単独補助路線は、10 路線・8 系統で、平成 19 年度の実績で、平均乗車率の高い路線は今治・新居浜線、輸送人員が 2 万 7 千 699 人、1 便当たり 11.9 人である。2 番目に高いのが西之川線の 1 万 7 千 758 人、3 番目が壬生川・保井野線で 4 千 990 人、1 便当たり 4.2 人となっている。平均乗車率の一番低い路線は、小松総合支所・石鎚山ハイウェイオアシス線で、輸送人員 806 人、1 便当たり 0.2 人である。2 番目に低いのは、東予港・壬生川線で 181 人、1 便当たり 0.4 人である。3 番目が小松総合支所・湯谷口線の 5 千 690 人で、1 便

特集 市議会のつみ

当たり 0.8 人となっている。今後、現在実施している実態調査などを踏まえ、現状に即した交通のあり方を検討していきたい。

市議会は、市民から選挙で選ばれた議員で構成され、市の予算や条例などの重要な案件を審議し、決定します。

本会議、常任委員会、特別委員会などの活動を通じて、市民の意思を市政に反映させる大切な役割を担っています。

本 会 議

市議会には、年 4 回、定期的に開催される定例会(通常は 3 月、6 月、9 月、12 月に開催されます。)と必要に応じ臨時に開催される臨時会があります。

定例会、臨時会のいずれも市長が招集しますが、議会運営委員会の議決を経て議長から請求があった場合や議員定数の 4 分の 1 以上の議員の請求があった場合には、市長は臨時会を招集しなければなりません。

定例会及び臨時会では、会議の初めに会期が定められ、原則としてその期間中に本会議や委員会を開催して議案などの審議や審査を行います。

市議会は、会期中に活動するのが原則ですが、この期間に結論を得るに至らなかった案件については、閉会中に継続して委員会の審査を行うことができます。

委 員 会

広範な分野にわたる多くの議案などを本会議だけで審議することは、非常に難しく能率的ではありません。

そこで、常任委員会と特別委員会を設置し、少人数の議員が専門的な立場から、より詳しく能率的な審査を行っております。

○常任委員会

西条市議会では、「総務委員会」、「民生産業委員会」、「企画建設委員会」の 3 つの常任委員会を設けております。すべての議員はいずれか一つの常任委員会に所属しており、付託された議案や請願の審査、所管事務の調査などを行います。

○特別委員会

特定の問題を審査するため、

必要に応じて議会の議決で特別委員会を設置しております。

現在、西条市議会では、「臨海地域振興整備特別委員会」、「新図書館建設調査特別委員会」、「行政改革調査特別委員会」、「周桑病院経営問題調査特別委員会」、「水資源調査特別委員会」の 5 特別委員会を設置し、議案の審査や付議事件の調査・研究を行っております。また、毎年

9 月に「決算審査特別委員会」を設置し、各会計決算の審査を行っております。

○議会運営委員会

議会を円滑に運営するために、「議会運営委員会」を設置しております。

議会運営委員会では、議長の諮問に応じて、議会の運営上の諸問題について協議・決定を行っております。

以上のほか、議会は年間を通じて会期にとられず随時、「全員協議会」や「各委員会協議会」を開催し、市政各般にわたる重要な案件の協議を行っております。

